

岩手大学教育学部附属小学校 今次研究の全体構想図

学校目標「未来を切り拓く人間の育成」 (重点目標)「するどく感じ よく考え つくり出す子供」

ゆたかな感性を働かせる子供の育成 — 響き合い 共に創り出す学び —

今次研究における「感性」の捉え

対象や事象を感じ取り、自分らしく思考・表現する力を十分に発揮させる心の動きや働き「知覚・感情・認識・想像・創造」という要素によって構成される

「響き合い 共に創り出す学び」

個々の感性が互いに影響し合い、意欲の高まりや思考の発展を生み出すことであり、学級の仲間や教師、学年の仲間、時にはその枠を超えた他者との関わりの中で、一人一人が学びの主体となり新たな価値を創り出していく学び。

「感性を働かせる子供像」

対象や事象を感じ取り、自分らしく思考・表現する力を十分に発揮している子供

「直観的感性」 対象や事象から感じ取り、自分らしく認識する心の動きや働き
(瞬間的に働き、無意識的な反応として表れる)

「創造的感性」 認識したことや既有の知をつなぎ合わせ、思考・表現する力を十分に発揮させる心の動きや働き
(能動的側面をもち、思考・表現する過程や表現されたものに表れる)

研究のねらい

ゆたかな感性を働かせる子供の育成のために、各教科・領域における「響き合い 共に創り出す学び」の指導構想、指導法を明らかにし、「響き合い 共に創り出す学び」の実現を図る。

「響き合い 共に創り出す学び」実現のために必要な視点

- 1 直観的感性を働かせた課題の認識
課題の魅力や価値の認識
- 2 創造的感性を働かせた学びの過程
(響き合い 共に創り出す学びの核)
(1) 自己判断、選択、決定
(2) 知識の再構成
(3) 思考の共有化
- 3 学びの実感
知識の身体化

教師の見取りと支援

子供の実態を把握し、「今、この瞬間」の子供の姿を感じ取り、質の高い学びを展開するための見取りと支援を行う。

素地として

個々が他者を受容し、信頼し合えるような集団であること。教師の指導観。

重点 1

創造的感性を働かせた学びの過程の在り方。

重点 2

感性を働かせる子供の姿の見取りと教師の支援の在り方。

重点 3

子供が感性を働かせた学びのよさを実感するための工夫。

国語科 第2学年 お話を読み、すきなところをつたえよう 「スイミー」

物語の世界に浸って話し合い、想像の世界を広げる授業を提案します。

スイミーが大好きになった子供たち。知恵と勇気をもったスイミーの行動や会話に共感しながら、応援したり自分と重ね合わせたりして読む活動を行ってきました。本時は、お話を振り返って一番心に残った場面を選び、その理由をスイミーへ伝えるため、お手紙にまとめます。

一番心に残った理由の交流では、友達の考えからさらに想像を広げ、自分の考えを深めていきます。友達が発する言葉に着目して感想を伝え合ったり叙述から想像できることを豊かに話し合ったりすることで、言葉に対する感性を働かせ、交流から膨らませたスイミーへの思いを再構成し表現する姿を目指します。

(黒淵 淳奈)



社会科 第4学年 「健康なくらしとまちづくり ごみのしよりと再利用」

自分が考えた「ごみを減らすために自分たちができること」について、友達や地域の人たちに説明し、フィードバックをもらいながら、自分の考えを見直す授業を提案します。

ごみの収集や処理に携わる様々な人たちの工夫や努力にふれ、市が抱える様々なごみ問題について「自分ごと」として捉えられるようになってきた子供たち。ごみ減量についての自分の考えを、根拠や理由を明らかにしながら、友達や様々な立場の地域の方々に説明しフィードバックされた意見をもとにさらに考えを深めます。

意見交流場面において、「お話を聞いて、『なるほど』と思ったことはありましたか。」「自分たちの考えたことは、盛岡市のごみを減らすこととつながりそうですか。」「さらに自分にできそうなことが思いつきましたか。」などと問うことで、地域の方と自分たちの意見を比較し、見つめ直す話し合いとなるようにコーディネートします。一人一人の考えが深まり、広がるような授業を目指します。

(白間 勇輔)



算数科 第6学年 比例と反比例 「比例の関係をくわしく調べよう」

「300枚の画用紙を全部数えずに用意する方法を考えよう」の問題解決をきっかけに、比例関係を用いて考えるよさを見だし、学習や生活に積極的に生かしていく子供の姿を目指します。

比例関係を用いて考えるよさとは、直接調べることが難しい場面や非効率的な場面において、調べやすく、その数量と比例の関係にあるとみることができ別の数量を見い出すことができれば、比例関係を用いて未知の数量を把握したり、先のことを予測したりすることができることだと考えます。

本時では、比例の関係を用いて大きい数を把握することができた背景には、「二つの数量が比例の関係にあるとみる」という仮定があるということに着目することを通して「だったら同じように、身の回りにも、比例の関係を用いることで未知の数量を把握したり、先のことを予測できたりする場面はないか」と、考察範囲を広げながら数理を追究することに没頭する学びの実現を目指します。(新田 円)



理科 第5学年 「魚のたんじょう」

卵から孵化した子メダカがどのように成長していくのか予想や仮説をもち、双眼実体顕微鏡を使って観察したり、他の生き物と比較して考えたりしながら問題解決する授業を提案します。

孵化後の子メダカの成長について、「お腹の袋の中身が養分だとすると...」といった予想や仮説を基にそれを確かめる方法を発想します。体の色やお腹の袋に着目して観察したり、他の生き物と比較したりして考えを交流し合い、生き物の命のつながりの共通性・多様性について考えていきます。

単元を通して子供たちが自分なりの問題解決を行う中で、「命のつながり」という軸に沿って考えを交流し、吟味しながら理解を深めることを目指します。本時では、メダカの観察結果を、飼育・栽培の経験がある生き物の「命のつながり」と関係付けながら考え、感性を働かせながら命のつながりの仕組みや神秘性について考える姿を目指します。

(小野寺 貴子)



音楽 第1学年 「みのまわりのおとにみみをすまそう」

普段何気なく聞き流している生活音を使った音遊びを楽しむ中で、即興的な音楽づくりの発想を広げていく授業を提案します。

本時は、身の回りの様々な音を自分の声で表現したり、友達と「呼びかけとこたえ」を使った音遊びをしたりしながら、声の高さや長さ、強さなどの表現方法を工夫すること、即興的に音を選びつなげていくことの「面白さ」を実感させていきます。

「こんな音を出してみたい」という音楽をつくることへの思いをもち、楽しみながら音と向き合う姿、他者と音で関わり合い、自分の表現をさらに工夫したり互いのよさを認め合ったりする姿を本時における音楽科の感性を働かせている姿と捉え、自分と音楽、自分と友達と呼応していく学びを目指します。
(松館 慧)



図画工作科 第4学年 「どんなかけができるかな ー造形遊びー」

子供が材料の組み合わせ方や光の当て方を試行錯誤しながら活動することで、見方や感じ方を広げて新しいものを創り出そうとする授業を提案します。

「材料の向きを変えると...?」

「材料を光に近づけると...?」

子供がそんな思いをもちながら、影をどのように表せばよいかを友達と交流し、楽しみながら新たな影を生み出していきます。

材料の組み合わせ方や光の当て方について悩んでいる子供には、「○○さんはどう思う?」「○○さんと一緒に考えてみよう。」などと、子供同士の関わりを促したり、表現の途中で満足感が出てしまった子供には、「これを使ったらどうなるかな?」などと声を掛けたりすることで、子供が絶えず考え、試行錯誤する姿を目指します。(平野 かなた)



家庭科 第5学年 「ミシンで楽しくソーイング ～オリジナルエプロン作りに挑戦～」

一人一人が自分の課題をもとに、どんな布でもミシンで真っ直ぐ縫うためのコツについて考えます。コース別学習を通して、試行錯誤しながら自分が納得する答えを見つけ出す授業を提案します。

5年生からスタートした家庭科の学習。初めての調理実習に向けて、子供たちはオリジナルエプロン作りに挑戦中です。自分が目指す理想のエプロンを作るため、裁縫用具の使い方を学んだり、何度もなみ縫いを練習したりしてきました。そして、いよいよミシン縫いに挑みます。

理想のエプロン作りに向けてどんな布でも「ミシンで真っ直ぐ縫う」ことが出来るようになるために、自由度のある学習場面を設定します。自分の課題に合わせたコースを選択することで、とことんコツを追究したり、友達の姿からヒントを見つけたりしながら、自分なりの解決方法を仲間と共に創り出す姿を目指します。
(添田 きり)



体育科 第3学年 「みんなでレベルアップ! セストボール」 (E ボール運動 イ ゴール型ゲーム)

ゴール型ボール運動に共通する、ボールを持たない動きに焦点化し、全員が得点を目指したセストボールの授業を提案します。

チーム練習やゲームを中心にして学習を進めます。ボールを操作する動きとボールを持たない動きを理解することで、ゴール型ゲーム特有の動き方に着目させていきます。

全員得点を達成するために、チームの特性に合った攻め方を選択したり、今までの学習で身につけてきた知識を発揮させたりします。特に、攻め方を選ぶ際には、練習ゲームを通して攻め方の有効性について体育的表現力を活用しながら試行錯誤させていきます。チームの特性を考え、自分たちに合った方法について話し合う過程で、個々の感性が響き合い、自分たちで学びを創る姿を目指します。
(渡辺 清子)



国語科 第4学年

気持ちの変化に着目して読み、考えたことを話し合おう「ごんぎつね」

登場人物の気持ちの変化について考えてきたことをもとに、兵十の立場に立って物語を語ることを通して、ごんに対する兵十の切実な思いを想像し表現していく授業を提案します。

「兵十は、ごんのことをどのように語ったのか」ごんの行動の意味から抱いた兵十の思いをもとに、実際に兵十の立場で語ることを通して、ごんについて語らずにはいられなかった兵十の切実な思いに迫っていきます。

登場人物の気持ちの変化について、本単元におけるこれまでの読みを活かして内容やニュアンスを考えて語る活動を通して、子供たちは読みや言葉に対する感性を働かせていきます。同じ物語を語る者同士でも解釈やこだわりによって語りが異なるということ、語りを交流することで体感しながら個々の感性が響き合う学びの姿を目指します。

(伊藤 翔悟)



社会科 第5学年

「暮らしを支える食料生産」

りんごやみかんの産地の特色を、分布図や雨温図などの資料をもとに話し合い、食料生産と自然条件のつながりを理解する授業を行います。

段ボール箱に書かれた産地を当てるクイズから導入し、子供たちの学習への興味・関心を高めます。りんごとみかんの産地の様子を、分布図や雨温図を比較しながら捉え、食料生産と自然条件のつながりに気付くことができるようにします。

りんごとみかんの両方を生産している「広島県」に着目し、「どうして両方の果物が生産できるのか」を話し合うことで、食料生産と自然条件のつながりについて深く考えられるようにしていきます。授業の前半で学んだことを活用しながら、社会的対象の意味に深くせまる授業を目指します。

(関戸 裕)



算数科 第2学年

「100より大きい数をしらべよう

【3けたの数】」

数の大小は不等号を用いて表現できるという知識を得たことをきっかけに、合わせた数同士の関係も不等号を用いて表すことができないかと考察範囲を広げながら数理を追究する子供の学びの姿を提案します。

子供たちはこれまでたし算やひき算の式と答えを等号でつなぐ経験をしてきています。本時では、新たに不等号と出会い、数の大小関係について記号を用いて表すことを学びます。そして、学んだことを活かし「等号と同じように、合わせた数の大小関係を表すときも不等号を用いることができるのか」と思考する姿を、考察範囲を広げながら数理を追究する姿と捉えています。

算数科における創造的感性を働かせ、独創的に数理を追究する中で、子供にとって価値ある数理を創り出す姿を目指します。

(片島 美津子)



理科 第5学年

「魚のたんじょう」

様々な生物との比較から、共通性・多様性の視点で、理科の見方や感性を働かせ、自分なりの問題を見いだす授業を提案します。

「命のつながり」の視点で問題を焦点化することで、単元を通して解決していく問題を考える授業です。生命の連続性を意識した事象提示や、「ヒメダカ」と「ミナミメダカ」の比較を通して自分なりの問題を見いだします。

単元を通して、「命のつながり」を軸として設定するために、野生の「ミナミメダカ」を事象提示で扱います。興味・関心をもち、自分なりの問題を見いだすことで、主体的な問題解決の学習につなげます。また、他者との交流を通して、自分の考えを再構成する吟味活動を通して、より妥当な問題を考え、互いの感性が響き合う姿を目指します。

(鈴木 健太)



音楽科 第6学年 「歌声をひびかせて心をつなげよう」

「こんな風に歌いたい。」「そのためにはこうしてみたらいいかな。｣と子供たちが音楽的な感性を働かせ、主体的に表現を工夫していく授業を提案します。

本時は、曲を聴いて感じたり気付いたりした曲のよさ(曲の特徴、曲想など)を聴き手に伝えるためにはどのように歌えばよいかを軸に、旋律や強弱記号、音読した時の言葉の抑揚などを手掛かりに表現を工夫していきます。

試行錯誤しながら歌っていく中で、思いや意図をより鮮明にし、曲想にふさわしい表現を工夫している姿を本時における音楽科の感性を働かせている姿と捉えます。自分なりの表現を歌い示しながら他者と交流し、それぞれの思いや意図に共感したり、新たな表現方法に気付いたりしたことを生かし、歌唱表現を高めていけるような授業を目指します。

(及川 優希)



図画工作科 第1学年 「おって たてたら へーんしん! ー工作に表すー」

紙の折り方や切り方をどのように工夫すれば楽しいものができるのか。友達と関わり合うことで発想を広げさらにやってみたいことを見つけていく授業を提案します。

児童にとって身近な材料である紙。本時は紙を折って立てた紙から想像を膨らませ、紙を切って動物や建物などの工作に表す授業を行います。

互いの作品を必然的に見合い、児童同士のつながりが生まれるような場の設定をします。また「○○さんと一緒に考えてみて」「友達のいいところを見つけているね」等教師が児童同士をつなぐフィードバックを行うことで、児童が自分の製作に没頭しながらも友達の発想の面白さに共感し、感性が響き合う学びの姿を目指します。

(今野 瑤子)



体育科 第1・2学年 「色とりどりちどり 宝取り鬼!」 (E ゲーム イ 鬼遊び)

個で相手をかかわす動きを基に、集団(1・2年生ペア)で相手をかかわす動きのよさに気付き、ペアの友達と協力して相手をかかわしていく動きを共に創り出します。

単元を通して、1年生は得点を取るために個人で相手をかかわすこと(アタック)、2年生は相手をかかわしつつ仲間の動きを手助けすること(アタック&フォロー)を学習の中心として行います。

子供たちが考えた方法を、「おとり作戦」「みんなで一気に作戦」など、名前をつけて動きを作戦化することで、自分たちの動きをより意識したり、体育的表現力を発揮して伝えたりすることにつながります。また、どの作戦をやってみるか自分たちで選び、実行することを通して、主体的に学習に取り組み、体育科の感性を働かせる姿を目指します。

(小野寺 洋平)



道徳科 第6学年 人間として生きるとは【よりよく生きる喜び】 教材名 青の洞門

命を燃やす生き方における喜びについて考えることを通して、人間のもつ強さや気高さの意義に気付き、自分自身を高める生き方に喜びを見出そうとする道徳的態度を育てる授業を提案します。

本時は、ユニットテーマ「命を燃やす生き方とは、どのようなものなのだろう?」について、これまでの学習も踏まえ、自己の生き方に対する納得解を紡ぎ出すことをねらいます。

そのために、学級の仲間や教師、教材との関わりの中で、互いに感性を刺激し合い、人として生きる喜びについて多面的・多角的に視野を広くして考えることや、考えを補充・深化・統合して深く思考することを大切にします。子供が見せる姿に、教師自身が感性を働かせて子供の思考の機微を感じ取りながら、最適と思われる手立てを瞬間的に選択し、その日その時にしかできない授業を目指します。

(谷藤 光明)



算数科 第5・6年

「形も大きさも同じ図形を調べよう」
「つりあいのとれた図形を調べよう」

合同な図形の性質、点対称な図形の性質を使って図形の構成の仕方を考察する活動を通して、両学年の学びを関連付けながら統合していくことを目指します。

本時の学習では、5年生は「合同な三角形のかき方」、6年生は「点対称な図形のかき方」について図形の構成要素に着目しながら、構成の仕方を考えます。どちらも図形の性質を用いることで、図形を構成することができるという点で統合することができます。

両学年の学びをふり返り、図形を構成するときの着眼点に共通点を見出したり、合同な図形と対称な図形の関連性を見出したりすることで、図形についての見方や感覚をゆたかにすることをねらいます。

(橋木 航平)



音楽科 第3・4学年

「ちいきにつたわる音楽に親しもう」

何度も聴いたり、歌ったり、体を動かしたりしながら、自分なりの迫り方で地域の音楽のよさを感じ取ることができる授業を提案します。

関心をもった地域の音楽について、何度も聴いたり、声に出して歌ったり、体を動かしたりするなど、各々がじっくり音楽に浸ることができる時間と場を設定することで、これからの生涯も感性を働かせて音楽を聴くことができる力を育てることを目指します。

本時は、伝統的な地域の音楽を繰り返し聴いたり、他の音楽と比較したりしながらたっぷり浸り、そのよさに気付こうとしたり、お互いに関心を持った音楽のよさを交流して、新たな音楽的価値を見付けようとしていたりする姿を、音楽科における感性を働かせている姿と捉えます。

(白築 了太郎)



体育科 第6学年

「みんなで創ろう マット運動」
(B 器械運動 A マット運動)

開脚前転と伸膝後転が「できる」「わかる」ために、自分や仲間の課題に合わせて、子供一人一人が体育的表現力を発揮する授業を目指します。

小学校で学習に、6年間高めてきた体育的表現力や体育する最後のマット運動。「できる」「わかる」ため九九の活用、そして仲間との関わりを基に、課題解決に向けて練習方法や場を考えたり、仲間の困り感に寄り添い、アドバイスをしたりしながら開脚前転と伸膝後転に取り組みます。

そのために、課題を解決するための練習方法や場を明示します。課題を達成するために十分な運動時間を確保します。そして、仲間と関わり、「できるようにする」「わかるようにする」というプロセスの中で、創造的な体育的表現力を発揮し合う授業を目指します。

(遠藤 勇太)



生活科 第1学年

「とべとべ わたしのヒコーキ」

友達と一緒に紙飛行機を折ったり飛ばしたりしながら、自分の目指す紙飛行機にむかって試行錯誤し工夫していく授業を提案します。

「遠くまでとぶ紙飛行機にしたい」「くるんと回転する紙飛行機がいい」それぞれが目指す自分の紙飛行機にむかい、何度も折ったり飛ばしたりして試行錯誤していきます。

前時の振り返りを全員が伝え合うことで、友達の工夫を取り入れたり、自分のしたいことを確かめたりしながら、本時での活動を進めていけるようにし、子供たちが夢中になって活動できるようにしていきます。また授業の最後には友達とインタビューをしい、夢中になった活動の中にある自分の気付きや友達の気付きを見つけていく姿を目指します。

(久慈 美香子)



外国語科 第5学年

Where is the station?

「マイタウンを作って紹介しよう」

自分だけのオリジナルタウンを作り、自分のお気に入りの場所を紹介することを通して、自分の考えや思いを伝え合う授業を提案します。

本時では、自分の作ったオリジナルタウンの街に友人を招待して案内する活動を行います。自分の生活経験や学習体験、身近な出来事などと話題を関連付けながら、自分のおすすめしたい施設について思いを込めて伝えようとする姿を、本時における外国語科の感性を働かせている姿と捉えます。単元で積み重ねてきた表現はもちろんのこと、ジェスチャーや既知の知識を使って、会話をふくらませていく姿を目指します。

単元を通して、積み上げてきたマイタウンへの思いを、思う存分アウトプットできるように、効果的なシェアリングを行いながらやり取りの充実を図ります。
(大森 有希子)



特別活動 第2学年

学級活動(1)「ゆり組1UP!!プロジェクト」

1年生との集会活動の内容について、互いの意見のよさを生かしながら話し合い、みんなが納得できるような内容に合意形成していくことを目指す話し合い活動を提案します。

本時の活動は、1年生との七夕まつりを開くにあたって、会の目的である「1年生と仲よくなる」を達成するには、どのような企画の内容にすればよいかを話し合う場面です。

それぞれの企画の「よさ」や「心配なところ」を出し合うこと、自分の思いだけでなく、「1年生は喜んでくれるかな」など相手意識をもって考えること、「自分たちの考える“仲よくなる”姿により近づくには…」と会の目的に沿って話し合うことを通して、見えてくる合意点に自分たちなりの新たな価値を見出し、みんなが納得しながら企画を決めていくことを目指します。
(小橋 由季)

